



平成26年度 グッドジョブ運動 知事表彰

<カイゼン・成果部門>

No. 1

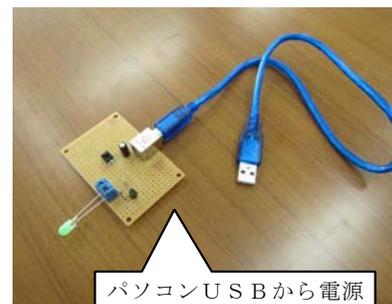
パソコン指導用訓練補助機器『ちゅうも君』について

(産業労働部 愛知障害者職業能力開発校訓練課)

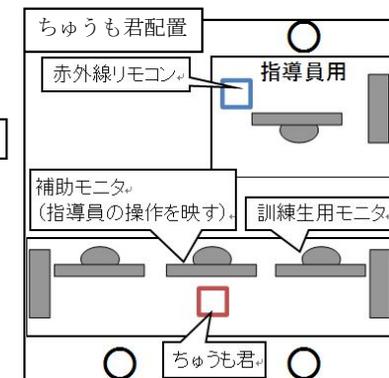
- CAD設計科のパソコン技能習得の訓練（授業）では、訓練生2人に1台の割合で設置された補助モニタに指導員が操作説明するパソコン画面を映す方法で訓練を進めているが、指導員が説明を始めるタイミングと訓練生が補助モニタを確認するタイミングがずれてしまうことがあり、訓練の円滑な進行に問題が生じていた。特に、聴覚障害者である訓練生に補助モニタを見るように伝えるための方法が求められていた。
- そこで、補助モニタの下に、指導員のリモコン操作でLEDが点滅する訓練補助器「ちゅうも君」を設置した。
- その結果、訓練生に補助モニタを確認するタイミングを正しく知らせることができるようになり、聴覚障害者からは、指導員に個別に指示されなくても、他の訓練生と同じタイミングで補助モニタを確認することができるようになったと評価を得た。
- また、精神障害者の訓練生の中には自分の作業に集中し過ぎたり、注意が散漫になったりして、指導員の指示を聞き逃してしまうことがあったが、「ちゅうも君」により意識を指導員に向けることができるようになった。

< 参考 >

○ パソコン指導用訓練補助機器『ちゅうも君』

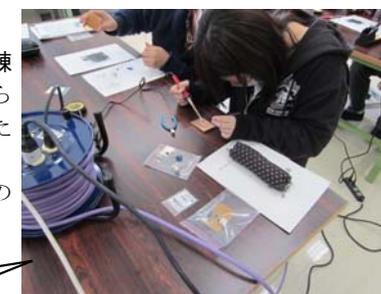


パソコンUSBから電源を供給。赤外線リモコンによりLEDが点滅する。



○ 『ちゅうも君』の作成について

『ちゅうも君』は、CAD設計科訓練生が訓練教材として製作しており、自ら作成した機器が実際に授業で使われるため、知識と技能を深めるだけでなく、「ものづくり」の喜びを与え、就労意欲の向上にも効果がある。



訓練生による作成

【外部アドバイザーコメント】

- 訓練業務の中で発見した課題解決の取組だが、訓練生に製作させることで同時に教育効果も上げるという着眼は高く評価できる。
- 今後、訓練生の更なる可能性を引き出せるよう、取組のステップアップを期待する。



No. 2

エクセルによる県庁案内システムの作成と活用

(議会事務局 議事課議事グループ【個人応募】)

○ 県民の方から窓口や電話で「〇〇を担当している部局はどこですか」「そこへはどのように行けば良いのですか」と尋ねられた際、自分に知識がなければ、周りに聞いたり、ホームページなどで確認したりすることになるが、回答に時間が掛かる上、確認が不十分であれば、県民の方を「たらい回し」にすることになってしまう。

○ そこで、問合せに係る部局名や業務内容、場所などのデータを簡単に検索できる「県庁案内システム」を作成した。(エクセル機能を活用し、既存の資料にリンクを貼るなどして連携させた。)

○ 具体的には、既存の電話交換用の資料(部局名、内線番号、業務内容等を記載した資料)をデータベースとして活用した。条件を入力すると、該当するデータを抽出できるように設定し、そこから職員配席図や愛知県公式サイト、各庁舎の平面図へリンクできるようにした。

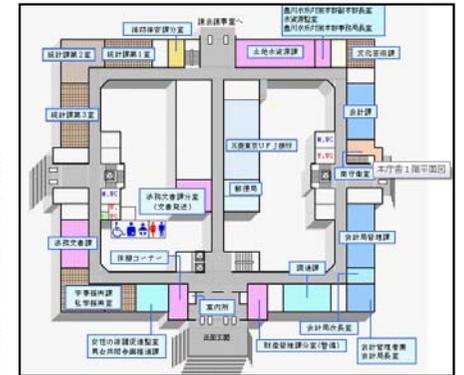
○ このシステムを多くの職員が活用することで、県民の方のお尋ねにスムーズに答えることが容易になり、その積み重ねにより、県民サービスの向上に繋がる。

< 参考 >

○ 県庁案内システム

条件を入力し検索

- ・業務内容、参考事項、部局名、課名、内線により検索
- ・複数の条件の同時検索、絞り込みが可能
- ・キーワードの除外も可能(例: ○ ○を含まない)

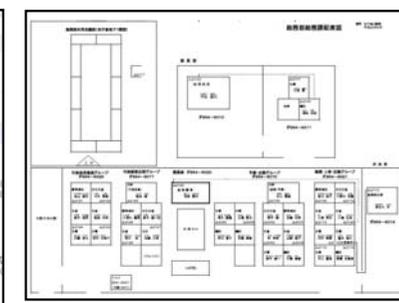


③各庁舎各階の平面図へ

業務内容	内線1	内線2	内線3	内線4	部署	課名	グループ名	カテゴリー
県民サービス課	2130	3020	3047		総務部	総務課	総務	総務
環境部					環境部	環境活動推進課	環境活動推進	環境活動推進
農林水産部					農林水産部	林産課	林産	林産
農林水産部					農林水産部	林産課	林産	林産
農林水産部					農林水産部	林産課	林産	林産
農林水産部					農林水産部	林産課	林産	林産
農林水産部					農林水産部	林産課	林産	林産
農林水産部					農林水産部	林産課	林産	林産
農林水産部					農林水産部	林産課	林産	林産
農林水産部					農林水産部	林産課	林産	林産

①愛知県公式サイト検索へ

②職員配席図へ



【外部アドバイザーコメント】

- 県民サービス向上に高い意識を持ち、意欲的に取り組んだ点が素晴らしい。
- 他の部署と調整を図って既存のデータを活用し、上手く組み合わせるシステム化したアイデアも高く評価できる。
- 庁内での幅広い普及・活用を期待する。



No. 3

情報公開に係る対応手順マニュアルの作成

(教育委員会事務局 管理部総務課行政グループ【個人応募】)

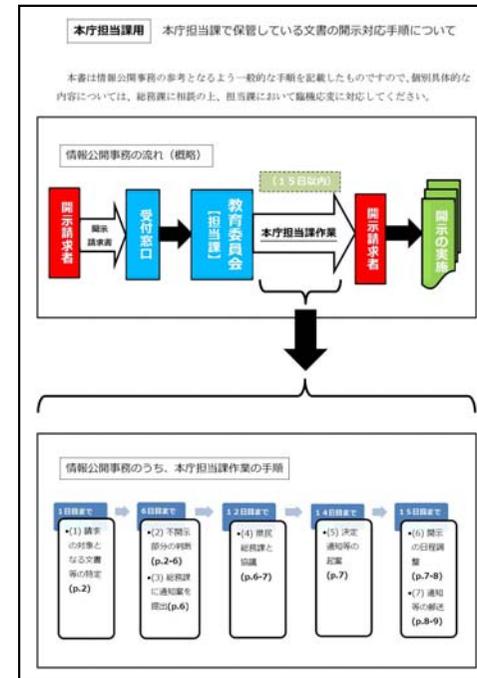
- 情報公開に係る開示請求の頻度が少ない所属は、関係事務に不慣れなため、対応に苦慮するケースが多く、時間もかかってしまう。
- そこで、情報公開に係る対応手順マニュアルを作成し、担当所属がいつでも手順を確認できるように、『教育用手引き・規程集』に掲載した。
- マニュアルは【本庁担当課用】と【主務課・学校等用】の2種類用意し、挿絵を挿入するなど見やすくして、これまでのノウハウを整理した。
- その結果、開示請求に不慣れな職員でも作業手順に迷うことなく、対応することができるようになり、教育委員会における情報公開事務の作業時間が約300時間縮減された。

< 参 考 >

○ 情報公開制度とは

愛知県情報公開条例等に基づき、県の管理する行政文書を県民の方の請求に応じて開示するもの。

○ 対応手順マニュアル抜粋



○ 削減効果

150 (請求書/年) × 2h (苦慮しながら対応を検討し、作業する時間)
=年間約300時間の削減

【外部アドバイザーコメント】

- 学校現場を含む幅広い事務改善の取組であり、文字フォント、アンダーライン、写真を効果的に用いるなど、視覚的に分かりやすく使いやすい形で取りまとめている点は高く評価できる。
- 今後活用する中で、更なる改善を期待する。



平成26年度 グッドジョブ運動 知事表彰

<カイゼン・成果部門>

No. 4

発光チューブ式夜光チョッキ

(警察本部 中川警察署)

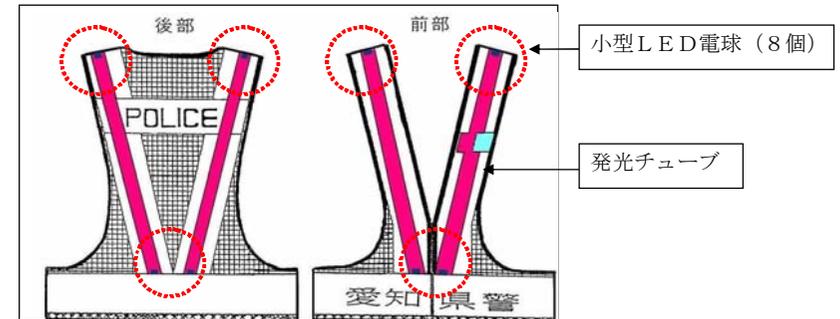
- 夜間、警察官が屋外で交通事故捜査や検問を行う際に着用している反射材付き夜光チョッキは視認性が低いという欠点があり、従来のLED自発光式夜光チョッキは点（発光体）のみが光るので視認性が十分とは言えず、また折りたたんで保管する際に導線が切れやすく、耐久性に不安があった。
- そこで、小型LED電球と発光チューブを組み合わせることで発光面積を拡大した、発光チューブ式夜光チョッキを作成した。
- 点ではなく面で発光させることにより、夜間における視認性を高め、着用者の安全性を向上させることができた。
- また、従来の夜光チョッキに比べ屈曲性・耐久性に優れた配線を使用することで折りたたんだ際の断線のリスクを軽減し、単価についても、従来のものと同等程度に抑えることができた。

愛知県警察本部
警察装備資機材開発改善コンクール(H26.7)
本部長賞受賞

< 参 考 >

○ 発光チューブ式夜光チョッキの概要

小型LED電球（8個）と発光チューブを組み合わせ、発光面積を拡大させ視認性を向上させた受傷事故防止資機材



従来のLED自発光式夜光チョッキ

発光チューブ式夜光チョッキ



【外部アドバイザーコメント】

- 視認性向上の課題に取り組み、コストを抑えつつユニークな発想により、新製品の開発に成功した点は高く評価できる。
- 工事現場など幅広く活用できると考えられるので、今後一般への普及も期待したい。



平成26年度 グッドジョブ運動 知事表彰

<チームワーク部門>

No. 1

M I Z (Minna de kaizen) - 浄水場若手職員によるグループ活動 - (企業庁 愛知用水水道事務所尾張東部浄水場)

- 浄水場の現場は、天候の影響で運用条件や設備の状態が変化しやすく、また多種多様な設備があるため、運用・維持管理には技術、経験が求められる。
- しかし、経験豊富なベテラン職員の大量退職に伴い、経験の少ない若手職員が配置され、発生するトラブル（設備故障、水質環境変化など）に対応する能力の向上を図ることが急務となっている。
- また、交代勤務体制のため、同じ職場の同僚でもコミュニケーション、情報交換が希薄になりがちである。
- そこで、平成25年度から、浄水場若手職員が、自らのスキルアップと業務改善を目標に、グループ活動（M I Z）を開始した。
- 多様な職種（土木、化学、電気、機械）の若手が夜勤の前などに、月に1回以上のペースで集まり、それぞれの強みを発揮し、試行錯誤しながら問題解決に取り組んでいる。
- その結果、若手職員の問題解決能力及びチームワークの向上に繋がった。

< 参 考 >

○ M I Zの概要

【目的】

「浄水場を安定的に運用する」ために、職場、設備の問題解決について、ディスカッションと実践に取り組むこと。

【体制】

5人×2チーム編成

定例会：月1回 非定例会：状況、課題発生により開催

【取組内容】

- ・改善活動：業務、設備について問題点の抽出、改善を行う。
(工具・資材の管理方法、薬品注入の自動制御)
- ・ケーススタディ：事故等のイレギュラー事象への対応について振り返り。
発生汚泥の返送水への混入（ヒヤリハット）⇒下記参照
- ・安全衛生活動：場内作業、設備における危険カ所（13カ所）を抽出し、対策を実施。

○ ケーススタディ

→汚泥処理で分離されたはずの泥が、浄水処理に混入しそうになった例（ヒヤリハット）について、内容の振り返り、原因追及、防止策の検討を行う。



内容の振り返り
◆当日の作業条件は？
◆あるべき手順は？
◆実際にとった手順は？

原因追及
◆なぜ起きたか
・複数の並行作業があった
・作業間の連絡ミスがあった
・情報共有不足があった

防止策の検討
◆情報共有を強化する
・情報共有ホワイトボード導入
・引継日誌フォーマット改訂

【外部アドバイザーコメント】

- 目標や課題を明確に定めた上でチームとして効果的な活動を行っている点、他の職場でも応用可能な汎用性が高い取組である点は高く評価できる。
- 改善に至るプロセスをより具体的に整理することにより、活動の更なる進化と庁内での幅広い普及を期待する。